

会 議 録

内容承認	公開・非	<開催日>令和元年7月4日(木) <時 間>14:00~16:45 <場 所>岸和田市役所 別館2階 上下水道局会議室	<傍聴人数> 2名 <傍聴室> 岸和田市役所別館2階 上下水道局会議室
武田委員長 浦山副委員長	公開の別		
承認	公開		

<名称> 令和元年度第1回 岸和田市上下水道事業運営審議会

<出席者>

◇岸和田市上下水道事業運営審議会委員(○は出席、■は欠席)

武田	浦山	宮内	大屋	片渕
○	○	○	○	○

◇上下水道局出席者

森下上下水道局長、赤坂次長兼下水道整備課長、大西上下水道局総務課長、深井料金課長
高橋上水道工務課長、深井浄水課長、和田下水道施設課長、各担当者

◇事務局

山中企画担当長、高木主査

<議題>

- 1 委員委嘱
- 2 案件
 - (1) 委員長・副委員長の選出
 - (2) 審議会の公開
 - (3) 「岸和田市水道事業ビジョン」の策定の趣旨等について
 - (4) 下水道事業について
 - (5) その他

<会議内容>

議題1 市長から各委員に委嘱状交付。市長挨拶。

議題2

(1) 委員長・副委員長の選出。

事務局より委員長に武田委員、副委員長に浦山委員を推薦⇒ 承認

(2) 本運営審議会の公開

本運営審議会の公開を決定

(3) 「岸和田市水道事業ビジョン」の策定の趣旨等について

- ① 担当者より、岸和田市水道事業ビジョンの策定の趣旨を説明後、以下の意見・質疑があった。

【委員長】 市民にわかりやすくするために用語の注釈がページ下に記載されているが、本文に注釈番号を表示すれば、見やすくなると思う。

【委員】 試案は、全体的に水道施設の現状評価、今後の対策等うまくまとめていると思う。水道ビジョンとして必要なポイントは一定揃っている。

- ② 各担当者より、現在の岸和田市水道ビジョンに掲げている4つの目標達成に向けて実施している各事業の具体策、進捗評価、今後の方向性などを説明後、以下の意見・質疑があった。

- 【委員】 「鉛製給水管・VP 配水管の解消」について、鉛製給水管の残存率が高いように思う。現在、配水管更新に合わせた改修に加え、単独の改修工事は行っていないのか。
- 【担当者】 単独の改修工事は実施していないが、漏水修繕工事や道路事業など他の工事に合わせた改修工事は実施している。また、建替えに伴う給水装置工事申込時に引替えをお願いしている。
- 【委員】 自分の給水管が鉛製であることを、市民は知ることはできるのか。
- 【担当者】 メーター検定満期時に給水管の確認調査を実施しており、鉛管が発見された使用者に対しては、お知らせチラシを配布している。
- 【委員】 引き続き対応するように願います。
- 【委員】 「貯水槽水道の水質管理の促進」について、貯水槽水道の受検率は、全国平均 78.4% に対し、岸和田市は 76%と、ほぼ同等といえる。今後も衛生行政と協力して、受検率の向上に努めてほしい。衛生行政とは定期的に協議はしているのか。
- 【担当者】 年に数回協議している。
- 【委員】 貯水槽水道の受検は、オーナー負担で行われるため、なかなか掃除や点検をされない方もいる。全国的なデータをみれば、点検されていないものが2割強、点検して指摘事項のあるものが2割強という状態。全体の4割が未点検か何らかの問題があるという事態を解決するため、引き続き、改善に向けて協議するように願います。
- 【委員】 「直結増圧給水の普及促進」について、学校の場合は建替え時の直結方式への見直しが多いが、教育委員会と協議はしているのか。
- 【担当者】 貯水槽方式は災害時に役立つ一面もあるなど、メリットとデメリットを説明しながら協議を行っている。
- 【委員】 全体的な直結方式への見直しの中期プランみたいなものはあるのか。
- 【担当者】 把握はしていない。事案が発生した都度に協議を行っている。
- 【委員長】 貯水槽水道の受検率は、衛生行政で公表しているのか。
- 【担当者】 衛生行政より浄水課に事務委託されているため、浄水課で受検率を公表している。
- 【委員】 「管路の耐震化と老朽管の更新」について、浄水施設の耐震化が 100%となり安心だが、管路の更新率が 0.6%では低いのではないかと。更新率 1%でも 100 年かかってしまう。重要度・優先度を考慮しながら更新投資を行っていくとのことだが、どのような目標を設定しているのか。
- 【担当者】 基幹管路等の耐震適合率は、2028 年度の目標値で 38.0%としている。
- 【委員】 管路全体では更新率はどれくらいになるのか。
- 【担当者】 まだ数値的には確定させていない。
- 【委員】 災害対策について、応急給水活動だけでなく、火災発生時における水の確保も水道の大事な役割である。企業団からの受水地点は山手にあるので、配水は自然流下方式が主体と考えられるが、配水管が破損しなければ、消火栓は使えると考えてよいのか。
- 【担当者】 消火栓が使える配水区域が多いが、受水地点よりも高い配水区域では、停電によって送水ポンプが停止するなど、消火栓が使えない事態が出てくる場合もある。
- 【委員】 災害時に消火栓が使えなくなる区域については、消防と話をし、自然水を取るなど、別の水源の確保について打ち合わせが必要である。
- 【委員】 施設運転用の自家発電機について、これはポンプを動かすために設置するのか。
- 【担当者】 そのとおり。

【委員】 「岸和田市水道地震応急対策実施計画の改定」について、現在の災害マニュアル類はBCP（事業継続計画）なのか。

【担当者】 BCPではない。

【委員】 災害時に、支援を要請するような事態が生じた場合、応援に来てくれる相手方どのように活動してもらうか、受援体制を整えることも必要である。

【委員】 「銀行口座振込の利用促進」について、ペイジーによる口座振替は、手数料がかかるのか。クレジット払いより安いのか。

【担当者】 手数料はかかるが、クレジット払いより安くなる。

【委員】 「有収率向上策の実施」については、有収率95%はかなり頑張っていると思う。

「電磁式水道メーターの導入」について、費用対効果が得られないために廃止したとのことだが、評価のとおり、口径が大きくなればメーター費用も高くなっていくため経済的でないと考えられる。

【委員】 「適正な水道料金の設定」について、財政収支見通しのなかで、給水収益に対する企業債残高の割合が、今でも400%位のところを、10年後には700%まで増えている。一般会計における早期健全化のラインは350%である。企業会計では、企業債残高のライン設定はないが、残高の抑制にはやはり料金の適正化が必須であり、一方ではさらなるコスト縮減を図ることが大事であると言える。コスト縮減のためにダウンサイジングすべきと提唱されているが、本市の浄水施設については、耐震化したところでもあり、企業団から受水するよりも安いし、また災害対策上も有効に使えるのでこの先も置いておくほうがよいと思う。では、こういった要素でダウンサイズするのか。管路更新は遅れないように、投資していくべきだし、非常に難しい課題である。

【担当者】 縮充という観点から、できるだけ効率化を図るため、配水管のルート変更や配水区域の統廃合、ダウンサイジングを考えていきたい。

【委員】 配水区域の統廃合を行う計画はあるのか。

【担当者】 現在、検討中である。

【委員】 施設利用率が60%なので、やはりダウンサイジングの視点が重要なポイントとなる。

【委員】 「技術と知識の継承・向上」について、現在の職員数が60名とあるが、将来どうなるのか。災害時の対応を考えると人は多い方がよいので、効率化して人材を減らすにも限界があると思う。また、退職者がでて職員補充をするときには、いかに優秀な人材を確保していくかが大事である。たとえば、就職適齢期の人たちを対象に、施設見学や業務の紹介などをして、就職先として興味を持ってもらうことなども人材確保の一つの方法ではないかと思うので、検討されたい。

【委員】 「お客様センター（仮称）の設置」の検討について、コスト面から休止の判断をしたとのことだが、市民からの問合せ案内等はどうなっているのか。

【担当者】 ホームページのほか、暮らしの便利帳に電話番号を掲載するなどを行っている。また、夜間の問合せについては、宿日直業務の受託者が対応している。

【委員】 広報関係では、一人暮らしの高齢者など、情報弱者への伝達配慮の視点も必要である。非常に難しい課題であるが、たとえばケースワーカーに災害時の給水拠点や避難場所などの情報を提供し周知してもらうなど、様々な方策を検討されたい。

【委員長】 ほかになければ次に進める。

③ 担当者より、今回策定する水道事業ビジョンの基本理念と理想像を説明後、以下の意見・

質疑があった。

【委員長】 前回策定した水道ビジョンは「安全でおいしい水道水の供給」「災害に強い水道」「経営基盤の強化」「お客様サービスの向上」の4つの施策目標であったが、今回策定する水道事業ビジョンは「安全」「強靱」「持続」の3つ観点で整理している。これは国のビジョンに合わせたという理解で良いか。

【担当者】 そのとおり。

【委員】 「お客様サービスの向上」の施策内容を「地域」というキーワードで分類して、「安全」「強靱」「持続」に加えて4本立てのビジョンを作っている自治体もある。

【委員】 基本理念で、「縮充の時代」とあるが、「縮充」という言葉を初めて聞いた。

【委員長】 「縮充」という言葉を読めばわかるが、聞くだけだと分かりにくい。

【委員】 ダウンサイジングのことか。

【担当者】 規模は小さくするが中身を充実させるという意味で「縮充」という言葉を用いた。

【委員】 一般市民にこれからPRし水道事業に理解を求めるのであれば、もう少しわかりやすい言葉を使う方がよいと思う。

【担当者】 まだ一般化している言葉ではないが、施設をダウンサイジングしながらも充実させていくことが重要だという思いを込めたものである。

【委員長】 もう少し検討してはどうか。

【委員】 代わりの言葉を考えるか、もしくは「縮充」は岸和田市の特色だ、とすることも考えの一つではある。

【委員】 理念に入れる言葉は、一般的に「信頼感のある水道」など、必要な施設整備も前提とした広がりのあるプラスイメージのあるものが多いが、「縮充」「身の丈にあった」はそのようなイメージがなく、また、言葉としてのイメージが重なっていると感じる。たとえば「縮充の時代を意識しながら持続性のある一」的な感じにすると、バランスが取れるのではないか。

【担当者】 量的拡張時代を経て、維持管理の時代に入ったと言われる中、今後は、身の丈に合わせて、ダウンサイジングしながら充実を図っていく姿勢を示した言葉である。

【委員長】 いろんな意見が出たので、それも踏まえて、次回までに再検討されたい。

④ その他として、以下の意見・質疑があった。

【委員長】 これまでの内容を含め、何か意見はないか。

【委員】 今回は、新しいビジョンの取組みや目標を定める前段として、前回策定の水道ビジョンに基づく取組みや評価を説明頂いた。その評価の仕方は、目標値の達成度によるものであったが、指標の多くは「PI」を用いているため、全国平均や類似団体との相対評価が可能である。前回ビジョンで掲げた目標値は未達成だが、類似団体と比べたら良いとか、目標値は達成していても類似団体と比べると、設定している目標値が低かったとか、評価分析を充実させることが出来ると考えられる。

次回、目標設定に対する評価、それを何処に反映させるかという方向性を整理した上で、次の目標をこのように設定したという手順の説明を期待する。

【担当者】 次回審議会の説明手順の参考とさせて頂く。

【委員長】 水道事業に関して他に何かないか。

【委員長】 ないようですので、案件(4)下水道事業について説明をお願いします。

(4) 下水道事業について

① 担当者より、生活排水処理基本計画変更方針について説明後、以下の意見・質疑があった。

【委員長】 説明が終わりました。何か意見、質問はないか。

【委員】 生活排水処理基本計画変更に関する大阪府との協議については、農林部局と下水道部局と両方へ協議したということでしょうか。

【担当者】 メインは大阪府下水道室になるが、農業集落排水の統合もあるので、管轄の農と緑の事務所にも事前協議した。

【委員】 生活排水処理計画の中で、公共下水道と農業集落排水事業との統合ということだが、汲み取りや浄化槽汚泥はどういう状況か、現状を教えてください。

【担当者】 汲み取りや浄化槽汚泥は、環境部門で収集し、磯上処理場の横にある天の川浄苑で処理している。

【委員】 既存施設の被災もあり、本格復旧も大変ということなので、この機会に公共下水道につなぐことは良いと思う。磯上処理場は将来廃止するのか。

【担当者】 下水道の全体計画の中では廃止としている。しかし、統合には課題等が残っており、今後どのように解決していくかを大阪府下水道室と協議している。

【委員】 各処理場の統合は、スケールメリットが働くので、効率化に資する有効な手段である。磯上処理場も小規模なので統合した方が良いと思う。しかし、不明水だとか合流改善等の課題があり、加えて、汲み取りや浄化槽汚泥をどうするか、生活排水処理全体を見据えつつ、将来的にコスト削減できる観点で検討されたい。

【委員長】 汲み取りがまだ残っている。今後どのようにしていくのか。

【担当者】 公共下水が未整備の地域については整備を促進すること、整備済区域については、接続の啓発活動を行うことで汲み取り、単独浄化槽を減らしていきたい。

【委員長】 それで下水道普及率はあがるのか。

【担当者】 未普整備の地域で、これから整備していくところは人口密度が低いところなので、めざましく数値が上がることはないが、徐々に伸びていくかと思う。

汲み取りや合併浄化槽で排水しているところについては2パターンある。整備済区域内における未接続。これについてはPR活動による啓発を行っている。あとは未整備区域。ここは市として投資していかなければならないが一度にはなかなか難しい。将来的には100%を目指していきたい。

【委員長】 スtockマネジメントに、その投資は含まれているのか。

【担当者】 Stockマネジメントは維持管理の方の考え方であり、全体の経営の中の判断として情報は入ってくる。すでに老朽化してきているところもあるので、そちらの方の整備が必要である。水道に比べて下水は開始が遅い。上水道と比べると拡張、維持管理、縮充の時代が数十年単位ですれている。Stockマネジメントについて、考え方は同じなので維持管理を計画的にやっていきたいと思う。

【委員長】 幹線に接続する投資額は下水道事業の経営戦略には反映しているのか。

【担当者】 下水道事業としては幹線を入れるところまでは整備なので、第一柵までは市が行うが、中の整備は個人にやっていただく形になるので、敷地内の浄化槽があるところに柵は持っていき、浄化槽をつぶして、汚水に引き込みをするという整備については、個人でやっていただくのでその部分は含まれていない。

【委員】 牛滝地区も中心部と同様の料金体系か。

【担当者】 使用料の料金体系は同じである。

【委員】 下水道未整備の汲み取り浄化槽について、一部は合併浄化槽を入れていると思うが、将来も下水道が整備されず、かつ、農業集落排水もない所は何件くらいあるのか。

【担当者】 上下水道局では把握しておりません。市民が住んでいるところはすべて下水道計画内に含まれている。ただし、末端については、要望もあるが、整備を待っていただいている状態で、家の建て替えなどで待ちきれない場合は、個人で合併浄化槽を設置して頂いている。

【委員】 その場合の補助などはないのか。

【担当者】 他市では下水道計画外であれば補助を出しているところもあるが、岸和田市の場合、すべて下水道計画内のため、補助はない。

【委員長】 ほかに何かないか。ないようなので、次に進めてください。

② 担当者より、岸和田市下水道ストックマネジメント計画について説明後、以下の意見・質疑があった。

■意見・質疑

【委員】 50年間で約1,928億円のコスト削減効果とあったが、その根拠は。

【担当者】 国土交通省によって下水道の管渠の法定耐用年数は50年が標準とされているが、その中には、まだ健全に使えるものもある。計画的に調査点検を行ったうえで一部傷んでいる場合は、適切な修繕をし、長寿命化を図っている。その結果が50年間で1,928億円の効果があるということ。あくまで試算だが、これまでの調査点検記録等、データの蓄積により劣化の発生比率も判断に入れたうえ、法定耐用年数での更新をおこなった場合と比較した金額である。

【委員】 1年間で約40億は大きい。

【委員長】 維持修繕、新規投資は入っていないのか。目標耐用年数とは市独自の年数か。1.5倍に延ばしているのか。

【担当者】 維持修繕費については修繕料に計上しており、長寿命化計画のもと実施している。

【委員長】 投資額で気になったのが、ストックマネジメント計画では、管路については年間平均7億円、処理場、ポンプ場で年間平均7億1800万円、全体で年間14億程度。ところが、経営戦略での建設改良費は11億程度。ストックマネジメントでの投資と経営戦略との整合はどうなっているのか。

【担当者】 確認のうえ、次回に説明する。

【委員長】 下水道事業の状況などについて、年報はないのか。

【担当者】 ホームページで下水道事業の取組みの紹介はしているが、年報はない。

【委員長】 市民にアピールする意味でも年報など出したらよいのではないかと思う。

【委員長】 用語の確認だが、管路と管渠の違いは。

【担当者】 管渠は下水管のみを指し、管路施設とは下水道管・マンホール・取付管を含んでいる。管渠の中でも、事故が起こった時にリスクの高いものを重要管とし、リスクの低いものを通常管としている。

【委員長】 一般市民向けには、管渠より下水管の方がわかりやすい。他についても、もっとわかりやすくすべき。

【担当者】 国交省用の資料ということで一般の方に見てもらう資料としては作成していない為、こういう表現になっている。

【委員】 補足すると、ビジョンや経営戦略は市民向けの話だが、ストックマネジメントは国の補助金等をもらうための計画であり、市民向けとはなっていない。

【委員】 下水でも投資はされていくと思うが、水道とは違うイメージである。水道では管更生とかは使わない。更生と布設更新の取り換えとの使い分け、あと耐震化のイメージはどんな感じか。

【担当者】 水道は圧力で流れているので、ダクティル管等が使用され、揺れに対して可撓性があるが、下水は自然流下でコンクリート管や塩ビ管が多く耐震化が必要となる。マンホールは液状化の浮上防止を耐震化で指摘される場所。

【委員】 管渠の方は更新が基本か。

【担当者】 管渠を点検した中で、管渠の布設替えを行うと、交通規制などが必要となるため、管の内側からライニングする更生という形になる。

【委員】 市民からすれば、そのあたりは上水も下水も同じように思っているのではないだろうか。用途によって違いがあるので、これが適正なお金の使い方ですよというのがあればわかりやすいと思う。

【委員長】 ほかに何かないか。なければ次第（5）その他をお願いします。

（5）その他

【担当者】 次回審議会の日程は、令和元年9月24日（火）14：00～でよろしいか。

【各委員】 了解。

【委員長】 それでは以上をもちまして本日の議事を終了します。委員の皆様ご協力ありがとうございました。感謝申し上げます。

以上

■ 次回審議会の予定

令和元年9月24日（火）14：00～

岸和田市役所別館2階 上下水道局会議室